



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.22  
令和4年3月23日  
文責：校長 福島

## 受け継がれるもの



104名のかすがっ子が晴れやかに巣立っていきました。卒業を祝うように、今年も校庭の桜が開花しました。いい季節です。

卒業式の翌朝は潤いの雨となりました。いつものように私は子供たちを迎えに出ていきました。雨の日は傘を持っているのでエアタッチは求めません。それでも、わざわざ荷物を持ち換えて手を上げてくれる子供もいます。傘や荷物を持っている手をちょっとだけ開いて反応してくれる子供もいます。その小さなしぐさがなんともかわいいのです。春日小の先生たちは「反応を相手に返して自分の気持ちを伝える」ことを大切に指導します。相手を大切に作る心とスキルが育っているのは、このような指導の継続によるものだと思います。6年生が登校しないからこそ、こうした小さな反応があるのが当たり前ではないと感じるのです。

その後は、いつものように全教室を回りました。最上級生になった5年生の教室から回りました。5年生の教室では、子供たちが担任の先生にこんな話をしていました。「先生、今日の朝自分たちでどんな6年生になりたいか話し合ったんですよ。〇〇さんの提案に、みんながいいねえと賛同したんです。」5年生の張り切った気持ちが伝わってきてうれしくなりました。

春日小学校には、6年生をモデルとして理想とする姿を受け継いでいくよき伝統があり、学校文化となっています。子供たちと先生たちで時間をかけてつくり上げた誇れる文化です。104名の卒業生が残してくれた素晴らしい校風が、しっかりと受け継がれていると感じました。

子供たちだけではありません。保護者や地域の皆様が「みんなで子供を育てていこう」という意識を代々受け継いで来られ、地域文化として根付いていることも確かです。「えんじゅ」に書かせていただいた春日中教頭先生からのうれしい電話や、リリース・おやじの会の受賞はその一端だと思います。学校を信頼してくれる気持ちは大きなエネルギーになっています。

本年度の「えんじゅ」は、これが最終号です。いつも読んでいただきありがとうございます。また4月に「えんじゅ」を書けることを願っています。